

ブック村だより

本学コレクション紹介(14)

J・S・ミル『セント・アンドルーズ大学名誉学長就任演説』(2)

.....	高橋 哲雄 (1)
心に残る1冊の本.....	鹿島 秀元 (2)
ぶっくす・なう.....	(4)
『双生児』	谷岡 一郎
『のぞいてみよう 流通の世界』	中野 安
『第三の買収』	佐和 良作
『逝きし世の面影』	下山 晃
学生の声.....	(6)
新・OPACのご案内	(7)
インフォメーション・開館案内.....	(8)



本学コレクション紹介(14) J・S・ミル『セント・アンドルーズ大学名誉学長就任演説』(2) (1867年2月1日述、1867年2月刊、初版)

本書は日本語訳も3冊出た。石上良平訳『学問の理想』(みすず書房, 1948)、堀秀彦訳『自由主義教育論』(思索社, 1948)、そして竹内一誠訳『ミルの大学教育論』(お茶の水書房, 1983)がそれで、前二者が同じ年に出たのが眼を惹く。

ちょうどこの年は翌年の学制改革を控えて、大学教育論議が沸騰のさなかにあった。本書は端的に言えば教養教育の勧めなのであるが、このとき出来た教養部の、今日にいたる長い苦闘と挫折の過程は、ミルの眼にはどう映っただろうか。

教養人といえば、丸山真男は『「文明論之概略」を読む』のなかで「J.S.ミルが、真に教養ある人間とは、すべて(everything)について何事か(something)を知り、何事かについてはすべてを知る人間だ」と言ったと書いている。典拠は示されていないが、本書から採ったという説がもっぱらだ。似た考えの持主であることは確かだとしても、こんなに大上段に振りかぶった言い方をミルはするだろうか、私は疑い、暇をみて原文に当たっているが、まだ見つけられないでいる。

(名誉教授 高橋哲雄)

心に残る 1 冊の本

私は、その男の出したパズルを二問、覚えている。一つは、その男の、小手調べ、とでも言うべきであろうか、どのパズル本にも載っていると推定されるパズルである。鈍い人たち（つまり、パズルなどに関心を持たぬ人たち）は、面白くも何とも無いような顔をして、「難しいパズルですね」といい加減なお世辞を言っても、まんざら空お世辞に聞えないくらいの、謂わば通俗の「難しさ」みたいな光もそのパズルに無いわけではないのだが、しかし、いささかでも、パズルに就いての訓練を経て来たひとなら、ひとめ見てすぐ、「なんて、簡単なパズルだ」と頗る退屈そうに呟き、そのパズルをほうり投げるかも知れない。

もう一つのパズルは、最も奇妙なものである。まるで、解き方の糸口が見付からない。そのパズルは、わりと問題設定が単純だったので、私は、つくづく問題構造を調べる事が出来たのであるが、ああ、このパズルには取り付く鳥が見つけれないばかりか、付け入る隙さえ無い。まるで分からないのだ。何としても考え付かない。ただもう不愉快、イライラして、つい諦めたくなる。所謂「難問」というものにだって、もっと何か手掛かりなりが見付け出せるだろうに、とにかく、どこという事なく、考える者をして、いやな気持ちにさせるのだ。私はこれまで、こんな奇妙なパズルを見た事が、いちども無かった。

これは確か、約三十年前、私が中学三年生の頃だったと記憶している。家の方向が同じであった為、よく一緒に帰った友人がいた。どちらともなしに、帰路の途中でパズルの出し合いをするようになった。上述のその男とは私の友人で、上述の話は友人が私に出した（現在私が覚えている）パズル二問についての事である。

この奇妙な二問目のパズルは、二週間ぐらいね

ばって考えたが解けずに、降参して友人に答えを教えて貰った。答は非常に簡単であった。なぜこの答を考え付かなかったのかと、切齒扼腕、非常に悔しい思いをした事を鮮明に覚えている。

父上、母上、パズルに熱中し過ぎてすみません。この友人とのパズルの出し合いを境に、ムダの多い時間を過ごして来ました。

パズルに夢中になり、高校受験を控え（大学受験のときもそうだったが）、親には、勉強している振りをし、パズル本に没入し、パズルを解いた。

当時に比べ、今となれば、パズルに割く時間はかなり減少した（という事にしておく）。が、今でも時たま、夜を徹しパズルをむさぼり食って、目覚めた雀の声の鹿威しに、ふと我に返る事がある。

家族の者の手前、研究をしていた振りをする（当時から進歩がない）ののだが、眼光炯炯我を射る妻に、慌てふためく自分は、心の中で「パズルも立派な研究だ。特に、数学においては、Eulerの一筆書きの定理も元はパズルだ！」（ここで、これが非常に重要なのだが、決して音声にはいけない。これは学習済み）と自己弁解を叫んでいる。この時は、少し情けなくなる。勿論、パズルに熱中していた事にはではない。音声にできない自分自身が、である。

さて当時の私は、パズル本を二冊ぐらいしか持っていなかった。当時、今みたいにパズル本が巷間に流布していなかった（これに関しては、私の無知かも知れないが）と記憶している。

その少ない私のパズル本の蔵書に新しい1冊として加えられる事になるのが、友人の奇妙なパズルを解きあぐね、本屋の当時は数少ないパズル本のどれかに、このパズルが載っているのではない

か、と探し回っているとき、ふと目に飛びこんできた本、それである。

私は立ち読みをしながら、急いでチェックしたが、残念ながら、友人の出したパズルは、それには載っていなかった。しかし、お小遣いの少なかった当時の私（この状況は今も同様）は、躊躇する事なく、清水の舞台から飛び下りて、その本を購入した。今まで見た事もないようなパズルでその本は、埋め尽くされていた。そのパズルの誘惑に負け、その新鮮さが私の背中を押したのだ。

『頭の体操第1集』（多湖輝著、光文社刊）、その本のタイトルである。私の心に残る1冊である。

家に帰って、早速むさぼり読み、解き始めた。この本は、当時の私が抱いていたパズルの常識をあらゆる面で覆す本であった。

当時の私の持っていたパズル本は、数字を題材にしたパズルが多く載っており、パズル＝数字パズル、という等式が私の頭にはあったのだが、この『頭の体操』には、殆どが数字を題材にしていないパズルである。そのくせ、問題文が短く、問題設定が簡潔明瞭である。しかも、解く糸口がなかなか見出せないときている。友人の奇妙なパズルと同じにおいを発する、不思議なパズルが多くその本には、載っていた。

それからの私は、『頭の体操』の魅惑的なパズルの虜となり、第2集、第3集、と立て続けに購入し、ついに当時既刊のものを全部購入した。勿論、どの巻も完全読破である。そして、新刊が出るのを心待ちに待ちながら、新刊が出ると、即購入という事を繰り返し、今では、第23集と恐らく第24集目に相当する『頭の体操 四谷大塚ベストセレクション』まで全てを購入する羽目となった。

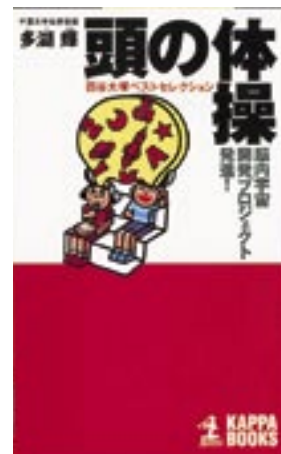
このうち、第22集目からの巻は、読みたい、解きたい、垂涎的であるが、これをぐっと我慢し（これがなかなか難しい）、いつになるかは分からないが、後の楽しみの為に大切に未読のままとってある。

以上、私の心に残る珠玉の一冊として、『頭の体操』について、駄文を書き連ねたが、興味のある方は、是非一読をお勧め申し上げる。但し、パズルの解き過ぎは、あなたにとって有益な時間を浪費し、上述の私のようにムダの多い時間を過ごす原因の一つになります。限りある時間有効利用の為、パズルの解き過ぎには注意しましょう。

最後に、友人が私に出した奇妙なパズルを、紙数の関係上、本質は不変のまま、少し変形して紹介しておく。また、このパズルの答と、友人のもう一つの小手調べ的なパズルについては、ここに書かない。知りたい方は直接私まで。

奇妙なパズル：狡猾な上司Aが、優秀な部下Bにあるゲームをしむけた。黒と白の小さなチョコが一個ずつ入っている不透明な箱から、Bに一つを取り出させ、黒であればAの勝ち、白であればBの勝ち、というものである。だが、狡猾なAは二個とも黒のチョコが入っている箱をBの前に差し出した。勘の鋭いBは、二個とも黒である事は分かっている。が、上司Aに正面から、その事を指摘できない。さりとして、あっさり負けるのも癪に障る。そこでBは妙案を思い付き、このゲームに勝った。さて、その妙案とはどのようなものか？

（経済学部准教授 鹿島秀元）



『頭の体操：四谷大塚ベストコレクション』
多湖輝 著；光文社、2005.1

※図書館2階「ブック村」コーナーにあります。

『双生児』

(早川書房, 2007.4)
クリストファー・プリースト 著, 古沢 嘉通 訳

SFにおいて、歴史のifという設定は珍しいものではありません。今回の『双生児』もいわゆるパラレル・ワールドを扱ったifモノですが、そこはプリースト、ひねりがきいています。

一卵性の双生児であるJ.R.ソウヤー（二人とも同じイニシャル）を主人公として、話は進みます。1936年ナチズムが台頭しつつあるドイツのベルリン・オリンピックに参加したソウヤー兄弟。ヒトラーの側近、ルドルフ・ヘスから銅メダルを受けますが、ここから二人の人生が異なる方向に進み始めます。読者の皆さんには（よほど歴史に詳しい人を除いて）どこまでがフィクションで、どれが史実なのかわからなくなるかもしれませんが、関係なく楽しめます。政治や社会運動を核

に、第二次世界大戦期のヨーロッパの迷宮に迷い込むような、そんなSF小説です。

クリストファー・プリーストは、日本では「プレステージ」という題名で映画化された『奇術師』が有名です。いま油の乗った書き手のひとりと言ってよいでしょう。パラレル・ワールド（ifモノ）でこの作品に比肩しうるのは、同じくイギリスのキース・ロバーツによる『パヴァーヌ』という作品。絶版で入手困難だと思いますが、ぜひ探してみてください。詩情豊かで美しい文体の中、宗教革命が起こらなかったヨーロッパ社会を描いています。この2作品の対比は、それ自体大変おもしろいテーマだと考えます。

(学長 谷岡 一郎)



『のぞいてみよう 流通の世界』

(千倉書房, 2007.7)
流通科学研究会 編

本書は、「ここまでやるのか!」と思われるほど斬新な工夫をこらした画期的な流通（商業・マーケティングを含む）の入門用教科書である。

まず第1に、アメリカの教科書が多色刷りを採用し、数多くの写真・イラスト等を取り入れてから久しいが、日本では少なくとも写真の採用に堪へては大きく立遅れていた。それを一挙に解消し、「見て、感じてもらう」ため一挙に約120葉ものカラー写真を採用している（ただし、あまり意味のない写真も少なくない）。

第2に、活字離れをして久しい、そして流通について何も知らない学生のために、できるだけ専門用語を使用せず、ただひたすら流通の世界がいかなるものかを「感じとってもらう」よう叙述に

工夫をこらしている。

これほどのサービスをこらした本書を「見て」もなお、流通の世界について興味をもてない諸君は、この分野とは相性が悪いのだといさぎよく諦め、別の分野へ進むか、あるいはむしろカラフルな世界とは異なる、忍耐を要するが奥行き深い「灰色の」流通理論の世界へ進んでみてはどうか。

それにしても、これまで流通関連で数多くの第一級の研究書を発行してきた地味な専門出版社が、このようなテキストを出版したとは驚きである。

(総合経営学部教授 中野 安)



『第三の買収』

(幻冬舎, 2007.9)
牛島 信 著

題名から容易に推測できるように、本書は、最近新聞等で時々報道されているような企業買収についての物語である。

年商200億円の第一部市場上場の「龍神商事」を舞台に、物語は展開されていく。株価の評価が低すぎると考えた社長の大日向は、再上場を視野に入れたMBOを決意する。ここで、MBOとはM&A（会社の合併・買収）の一種で、経営陣による買収のことである。

法律事務所、証券会社、会計事務所などと綿密に相談した上で、MBOを発表したが、アメリカ系投資ファンドが買収に名乗りを上げてきた。株式の買収価格で、しのぎを削る争いはやがて泥沼化していった。

権力に目のくらんだ常務の投資ファンド側への

寝返り、社長に忠誠を尽くしてきた監査役の挫折と自殺など、さまざまな問題が起きるが、最後は、ハッピーエンドを迎えるという物語である。どのようなハッピーエンドであるかはここでは申し上げられない。まさに本書の題名が示唆している。

三角合併とかMBOなど、さまざまなかたちでのM&Aが話題になっている。最近では、ドン・キホーテがオリジン東秀の敵対的買収に乗り出したが、イオンが「白馬の騎士」として登場し、結局イオンの公開買い付けが成立したという出来事が思い出される。今後もっと頻繁にこの種の問題が起きるに違いない。現実を理解するうえで参考となる書といえよう。

(経済学部教授 佐和 良作)



『逝きし世の面影』

(平凡社ライブラリー, 2005.10)
渡辺 京二 著

遠くは南蛮人の時代から、日本を訪れた外国人の多くは、何故か日本（日本人）のことを「これ以上には褒めようがない」と思えるほどの褒め方で絶賛している。ザビエル然り、『東方案内記』のリンズホーテンも然り。『グレタ号日本通商記』を書いたリュートルフやラフカディオ・ハーンなどは「まるで天国！」とまで書いている。特に欧米人の書簡、日記、見聞記、回想、随筆には、他国とは違った日本人の格別な気立ての良さや勤勉性、穏やかさと陽気さ、器用さ、親切心等々への驚嘆と賛辞が広くみられる。

先日、愛犬みよこの三回忌法要のため近所の動物斎場へ出向いたところ、先客の老夫婦がウサギの供養をしておられた。老夫婦は斎場に小さなお

墓まで作っていて、妙に神妙。お坊さんはもっと神妙な口調で、「ウサギのピーター、大おおじよおおう〜」と、お経を唱えておられる。不謹慎にも、ほくは笑いを必死にこらえながら、何故か、この本の「生類とコスモス」の章のことを思い浮かべて、一心に祈る老夫婦の姿に江戸庶民の穏やかで柔らかな面影を感じたのであった。本書をピーター・フランクル他著『なぜニッポン人は美しい風習を捨てるのか』とあわせ読むと、「古き良き日本」を単に回顧するだけでなく、自分と文化の関わりについての大切な問題を深く、深〜く考えることになる筈、です。

祭笛 紅葉の溪に消える 江戸

響太郎

(総合経営学部教授 下山 晃)



学生の声



今回は、昨年実施しました図書館アンケート自由記入欄に寄せられたご意見が、現在図書館でどのように反映されているかをご紹介します。

貸出冊数をもっと増やしてほしい/本の返却が遅れた時のペナルティが厳しい。：21人

本年度（2007年4月）より、貸出冊数・期間・延滞時のペナルティが下記のように変更されました。

貸出対象者	冊数	期間
1・2回生	8冊	2週間
3・4回生	10冊	1か月
延滞時のペナルティ（貸出停止期間）		
平成18年3月まで		新規程
延滞日数の3倍		延滞日数

暑い（エレベーター含む）/もう少し冷房を強めてほしい/冬場は寒い

64人（教員2名含む）

→館内の各所で温度をチェックし、より細かく温度設定を行っています。温度設定は、環境配慮への取り組みから、クールビズ（27℃）・ウォームビズ（21℃）の範囲内で行っていますので、学生の皆さんのご理解・ご協力をお願い致します。

階によっては私語が多く、騒がしい

50人（教員1名含む）

→館内巡回を強化し、マナー指導の徹底を行いました。本学では建学の精神「思いやりと礼節」にもとづきマナーについて、全学的な取り組みを行っています。図書館では昨年末に「マナー」をテーマとし、関連図書の展示・貸出や、収集したマナー啓発関連のポスター掲示などを行いました。今後も図書館

本来の利用目的に沿うべく、「学習の場」の提供に努めていく方針です。

雑誌（スポーツなど）を増やしてほしい

14人（教員1名含む）

→試行的に、下記スポーツ関係3誌の受け入れを開始しました。

『Badminton Magazine』

『Sports Management Review (SMR)』

『Tennis Magazine』

なお、以前より所蔵している同分野の雑誌は次の通りです。

『岳人』

『Sports Graphic Number』

『Training Journal』

『World Soccer Digest』

新しい本（ベストセラーなど）・視聴覚資料を増やしてほしい：19人

→現在図書館には、書店ベストセラー・朝日新聞書評図書・映画やドラマの原作本を中心とした「お薦めコーナー」を2階フロアに設置しています。コーナー冊数が130冊前後に対し、毎月100冊前後の貸出がありますので、是非お立ち寄り下さい。

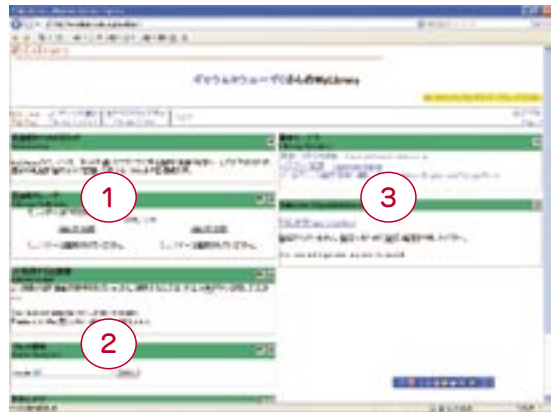
→つい最近まで上映されていた作品については、著作権者保護の観点から、図書館からの提供はできかねます。そのかわり（というには語弊があるかもしれませんが）、アカデミー賞受賞作を中心とした不朽の名作、図書館利用のコツや情報収集のコツなど学習に役立つ資料、世界最大のドキュメンタリーチャンネルである『ディスカバリー・チャンネル』などの秀作ドキュメンタリーなどを収集しています。

日曜日も開けて欲しい/夏休みの開館日を増やしてほしい：57人（教員3名含む）

→現在、夜間・休日も図書館を利用して頂けるよう、開館時間延長および休日開館を検討中です。

新・OPACのご案内

OPAC（資料検索用パソコン）が新しくなりました。今回は新機能についてご紹介します。



① 「新着図書案内」の表示待ち時間が、大幅に短縮されました。

新着図書およそ1,000冊を、分野別（登録日順の50音順）に閲覧できます。1週間以内に受け入れられた資料にはマークが付けられています。新システムでは表示されるまでの待ち時間が、大幅に短縮されました。

② 「雑誌タイトルリスト」および「視聴覚タイトルリスト」を閲覧できます。

現在図書館で購入している雑誌（和洋別）および視聴覚資料（フォーマット別）のタイトルを一覧できます。これらのリストも、1週間以内に受け入れられた資料にマークが付けられています。

③ 検索項目が増えました。

検索項目に「配架場所」が追加されました。例えば、

2階にある「特設」「お薦め」「学生選書」「朝日書評」などの人気コーナーには、どんな本があるのか知りたい。

「世界の名作」を読むよう、課題が出た。文学全集と岩波文庫は図書館にあるらしい。全集は重たいので、文庫本の方を借りて帰りたい。

…といった時に便利です。

「MyLibrary」機能が追加されました

「MyLibrary」は、インターネット上で資料・資源・検索ツールなどを、書斎や勉強部屋のように整理しておける機能です。

個人のページにログインすると、下記のサービスを利用できます。

① 図書館からのお知らせ及びカレンダー

図書館からの大切なお知らせや開館日情報が確認できます。

② リンク集作成

（図書館・サーチエンジン・お気に入り）

日頃よく参照するサイトをブックマークし、3種類に分けて分かりやすく整理できます。

③ 貸出・予約状況照会

今自分の借りている本や予約している図書の状況を確認できます。

MyLibrary機能を使用するには、図書館用のパスワードを申請する必要があります。希望者は図書館カウンターまで申し出て下さい。

図書館インフォメーション

◆OPAC（情報検索用パソコン）がリニューアルされました

資料検索画面が新しくなり、検索メニューや検索項目が追加されたほか、自宅からでも個人で情報ツールの管理や利用状況照会が可能な「MyLibrary」機能が追加されました。（詳しくは本誌7頁で紹介しています。）

◆本年度上半期ベストリーダー上位20位を展示しています

2階特設コーナーでは、本年度上半期に貸出回数の多かった20冊および、図書館学生スタッフが選んだ「学生選書」の貸出回数上位20冊を展示・貸出しています。紹介文や選んで下さった学生さんのコメントが添えられている人気コーナーです。是非ご覧下さい。

◆平成19年度上半期に配架された本学教員著書は下記の通りです（教員名50音順）

【高橋哲雄先生】『東西食卓異聞』－京都：ミネルヴァ書房，2007.4.

【岩井紀子先生，保田時男先生】『調査データ分析の基礎：JGSSデータとオンライン集計の活用』－東京：有斐閣，2007.3.

【中津孝司先生】『北東アジアの危機と新成長戦略』－京都：晃洋書房，2007.5.
『中小企業と人材育成』－東京：創成社，2007.4.

【山本 誠先生】『情報社会の会計課題』－東京：中央経済社，2007.4.

【佐々木謙一先生】『経済学の基礎学力：学びはドリルからはじまる』－岡山：大学教育出版，2007.5.

◆卒業してからも図書館を利用できます

卒業生は利用者登録をすると、1年間無料で図書館を利用することができます（更新は何度でもできます）。希望者は卒業式の翌日以降に、身分証明書（免許証、保険証など）および写真（3cm×4cm）1枚を持参の上、図書館2階「利用者登録受付」カウンターまでお越し下さい。

開館案内

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/ 30	24/ 31	25	26	27	28	29

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

●は休館日です。（開館時間：月～土 9：00～20：00）

上記以外にも臨時休館日を設ける場合があります。

開館日程および時間は変更されることがあります。詳細は学内掲示・

モニター・ホームページ等でお知らせ致します。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第31号

平成19年11月30日

発行

大阪商業大学図書館

〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10

電話(06)6781-5280

FAX(06)6781-0089

e-mail：lib@oucow.daishodai.ac.jp

ホームページアドレス：http://www.lib.daishodai.ac.jp

ISSN 1346-8928